



茅葺屋根が美しい穂積家住宅

学芸員さんたちの説明では、「伊能忠敬などの地図は官製で庶民の目には入らなかつたが、赤水（大日本史編纂に関わった）の地図は資料が豊富で、その当時は極めて正確でした。大阪で出版され、大いに売れた。しかし、水戸は賊軍なので明治政府の教育政策の一環で闇に付されたのでは。」との話でした。

後者を調べた。「地図の緯度は分度器で計測できる。経度は 1884 年の「国際子午線会議」で、イギリスとフランスの学者の闘いで、グリニッジ天文台の位置を「0 度」と決めたらしい。」だからおかしい。地図を見た。明石に 135 度の経度線がない。いや、横線には数値が書いてあるが、縦線にはない。

学芸員さんに質問すると「京都御所を基準として、一定の距離で分割したのでは」とのお話でした。納得！

6人と駅ビル 10 階で自主学習会。こちらの方が熱が入ったか。



江戸時代中期の豪農、穂積家の主屋

【南畠清志】

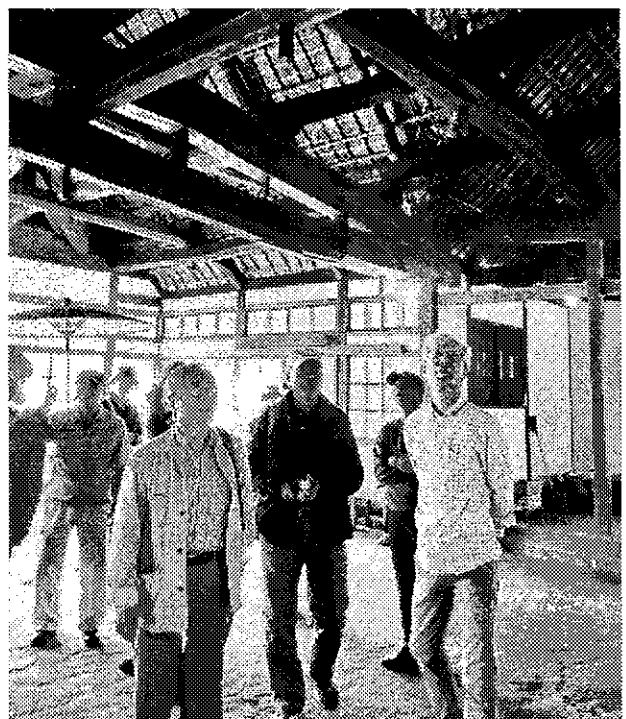
先日はお世話になりました。ツアーを主催して下さった幹事の方々に感謝です。

◎ツアーで良かったこと

- ①バスの中での岡野先生による事前学習が大変効果的でした。
- ②バスの中で見事に進行を務めて下さった篠原先生の存在。

◎残念だったこと

昼食時にアルコールに巡り合うことがなかったこと。



【長沼皖司】

これまでの行楽的な色合いとは異なり、今回の「秋のツアー」は、長久保赤水の生誕地を訪ね、その足跡と業績を探訪しようという目的であり、学術的な企画となりましたが、果たして参加者がどれくらい得られるか不安でした。

私は、嘗て 6 年ほど勤務していた北茨城養護学校が、赤水の生家近くに存在していたのに、赤水については全く無知であった

で、懐かしさ半分で参加したいと幹事会での下見役を買って出ました。

当日は、予想を超えて 20 名の参加で和気藹々のうちに、予定していたツアーの目的を果たせたと安堵しました。参加者のみなさん、お疲れさまでした。

【佐川廣文】

県北のツアーは久々である。私は幼少時には県北・多賀郡の奥山で育ち、当時の高萩の街は仰天するような大都会であった。高萩には戦後復興に大きな役割を果たした毎年 5 月に 1 週間開催された関東、東北唯一の馬市があった。馬市同時に開催される大テントでのサーカスや大道芸、立ち並ぶ露店の賑わいは楽しく強烈な印象を受けたものだ。両親の実家の馬たちも「せり」に出され、大人たちは現金収入の喜びに沸いていた。高萩の長久保赤水など知る由もなかつたが、祖父の家の壁にはボロ隠しに赤水地図が貼ってあったような記憶がある。祖父たちにとってこの地図はお伊勢参りや出羽三山巡りの旅の思い出としても貴重なものであったに違いない。

今回の秋のツアーを機に赤水について認識した次第だが、高校の時、親友の佐川宏君（故人）に誘われて松岡藩（高萩市）の殿様の墓と赤浜を訪れたことが思い出された。ツアー当日赤水の墓を後にして帰路 6 号国道を南下し、鵜の岬に向かう途中左手に見えた伊師浜（旧・櫛形村、現・日立市）の海岸に広がる松林に小学生の時、伊師浜の N 君に誘われて巣から落ちているカラスの子を拾いに行ったことがある。結果は空振りであった。帰りは自転車で上り坂の砂利道を 2 時間くらいかけて十王川の上流の自

宅に着いた時はとっぷりと日が暮れていた。童謡「七つの子」を作詞した野口雨情の北茨城市磯原にある生家を継いでいる直孫の野口不二子さんは高校の同級生で今でも交信がある。

同じ伊師浜には沼田秀郷さん（故人）がいた。秀郷さんは当時の多賀郡櫛形村の筆頭地主であった。秀郷さんたちは戦前から

「土地は農民へ」と旗印を掲げていたから、戦後は私有地を全部開放してしまった。その後、日本共産党中央委員の秀郷さんはプラハに駐在したが、水彩画家としてその名を知られている。その画集の一文からその人柄を見ることが出来る。たとえば、太平洋戦争末期の 1945 年 7 月に日立市が艦砲射撃で大被害を受けた時、伊師浜一帯も焼け野原になった時、秀郷さんは部落の全戸が再建できるだけの木材を高萩営林署に交渉して無償で手に入れ喜ばれたという。秀郷さんの母屋も焼けてしまい、自分たちは粗末な掘っ立て小屋暮らしをしていた。里美村（現・常陸太田市）の山持の家に嫁いだ妹が見かねて、二階建て分の材木を加工して届けたが、秀郷さんは日立市の党事務所用にその材木をそっくり提供してしまったという逸話がある。この事務所は日立製作所海岸工場の目の前であるから、首切り反対闘争などの時にはセンターとして大きな力を発揮したことは言うまでもない。いま戦争では精密な地理情報を得てピンポイントで攻撃するデジタルの時代であるのだが、伊能忠敬よりも 42 年前に日本地図を作った水戸藩の儒学者長久保赤水図は「平和な地図」として明治期まで長く人々に活用された。学ぶことの多い秋のツアーであった。